

広報

ちは市老連

VOL.17

創立40周年 記念特集

- 祝辞 千葉市長 鶴岡 啓一
- 祝辞 千葉市社会福祉協議会長 安田 敬一
- 創立40周年を祝して 千葉市老連会長 長谷川省悟
- 私の主張
- 創立40周年記念座談会
- 千葉市老連年表（抜粋）
- 全老連創立40周年記念全国老人クラブ大会
- リーダー研修会に参加して
- 役員研修旅行記
- 自由席
- 事務局だより
- 文芸



祝 辞

千葉市長 鶴岡 啓一

この度、社団法人千葉市老人クラブ連合会には、創立四〇周年を迎えられ、記念誌が発刊されましたこと、誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

貴連合会には、昭和三七年に創立されて以来、永年にわたり、高齢者福祉の充実・向上に努められ、多大なる成果をおさめられておりますこと、ひとえに歴代の会長さんをはじめ会員皆様方の並々ならぬご努力・ご尽力の賜ものと存じ、深く敬意を表する次第であります。

さて、本市は、四月に政令指定都市移行一〇周年という一つの節目を迎え、また、人口も九〇万人を突破したことから、さらに充実した大都市行政を展開していかなければならないと考えております。

そこで、市民福祉の一層の向上と市域の均衡ある発展を目指し、二年

次目となる「新五か年計画」を着実に推進し、ソフト・ハード両面のバランスのとれた施策の展開を図り、九〇万市民お一人おひとりが、安心していきいきと暮らせるまちづくりに懸命の努力をいたしているところであります。

特に、高齢者福祉につきましては、平成十二年よりスタートした「高齢者保健福祉推進計画」に基づき、行政と民間が役割を分担し、連携・協働して、明るくいいきいきとした長寿社会を目指し、高齢者のニーズに対応した保健・医療・福祉サービスの充実、さらには、健康づくりや生きがい施策の推進に努めているところであります。

長寿を心から喜び、幸せを実感するためには、高齢になっても心身ともに健康で、様々な活動に参加し、生きがいのある生活を送れることが

大切であります。

そのためには、自分の健康は自分で守るという自覚を持ち、趣味や教養、スポーツ、娯楽や健康づくりなどの活動を通じ、自分にあったライフスタイルを築いていくことが必要であろうかと存じます。

このような時、貴連合会皆様方の日頃からの献身的なご尽力・ご活動は誠に心強く、どうか、皆様方には、この創立四〇周年を契機として、さらに一致協力され、地域社会の発展と魅力ある老人クラブづくりのため、さらには、本市高齢者福祉の充実のため、一層のご協力・お力添えを賜りますようお願い申し上げます。次第であります。

おわりに、社団法人千葉市老人クラブ連合会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝・ご活躍をお祈りいたします。祝辞といたします。



祝 辞

社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会会長 安 田 敬 一

千葉市老人クラブ連合会におかれましては、四〇年もの長きにわたり、高齢者の生活と、地域を豊かにする活動に積極的に取り組んでこられたことに對し、深く敬意を表する次第です。

さて、二一世紀は「高齢者の世紀」と言われています。すでに、六五歳以上の高齢者比率は、十四歳未満の子どもたちの人口比率を上回り、将来はさらにこの格差が拡大するものと予想されており、言い換えますと、「高齢者が受け身の存在であった時代」から「高齢者が主役の時代」が到来しているのです。

また、高齢社会といえば、多くの高齢者を抱え、医療・介護や年金など若年層に負担がかかるという問題を考えがちです。

しかし、これらの問題も大事ですが、高齢者の皆様の中には、「まだ

心身ともに健康で、さまざまな形で社会に貢献したい」という方がたくさんおられます。高齢者の豊かな知識と技能は、社会の財産であり、この財産をいかに有効に活用し、社会参加を一層進めていくかが、高齢社会を迎えるにあたり重要であると認識いたしております。

このような状況において、高齢社会をより豊かに、活力あるものとしていくためには、高齢者の皆様の社会参加のきっかけづくりの場である老人クラブの意義は今後、ますます大きくなるものと考えております。

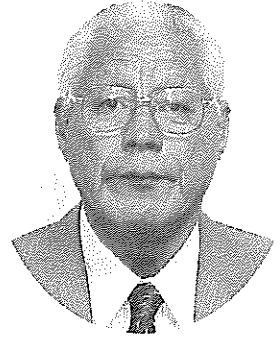
二一世紀を見据えた新たな老人クラブを、全国老人クラブ連合会の「老人クラブ二一世紀プラン」において、「新しい高齢者像づくり」「地域の担い手」「保健と福祉の推進役」の担い手としてその役割を位置づけ、「市民総参加の福祉社会づ

くり」に取り組むことを掲げております。

まさに、これらの取り組みは、私も社会福祉協議会の役割である「地域福祉の推進」に通じるものがあります。

その意味におきまして、私どもが目指す「共に手を携える福祉社会」は、地域を基盤とする高齢者の自主組織として、四〇年の長きにわたり活動が続けられてきた貴会の豊富なご経験とご協力があったこそ、初めて実現されるものと確信しております。今後ともより一層のご理解を賜りたくお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますのご発展ならびに会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



創立四〇周年を祝して

社団法人千葉市老人クラブ連合会会長

長谷川 省 悟

千葉市老人クラブ連合会は、昭和三十七年五月創立され本年で四〇周年を迎える輝かしい歴史を持った団体であります。

創立当時は、僅か一五単位クラブ、会員数約八〇〇人に過ぎなかった本会も、今では三二五単位クラブ、会員数約一六〇〇〇人に増加し、活動内容も充実してきました。

これはひとえに、本会創立以来今日まで市当局の熱心なご支援と適切な指導によるものであり、かつ、本会役員の先導的なご努力と会員のたゆまぬ協力の賜物と改めて深く敬意と感謝の念を新たにします。

本年は、奇しくも全国老人クラブ連合会も創立四〇周年にあたり、九月二六日に東京の日比谷公会堂で全国から会員約二〇〇〇人が集り記念

式典が盛大に開催されました。

この式典で、これからの老人クラブの発展方向性について示唆されているので参考にしていきたいと思えます。

一、創立四〇周年を期して、私たちは、戦後の窮乏荒廃の中で自主的に開拓したもので、「仲間づくり、健康づくり、生きがいづくり」を目的とした「老人クラブ創設の原点」に立ち返り、新時代にふさわしい発展方向をめざしたクラブ活動を積極的に展開する。

二、すべてのクラブが、仲間を温かく迎え入れ、多年培ってきた知識経験と豊かな能力と意欲を発揮して、心豊かな明るい高齢社会の建設に向け、自覚をもって行動する。

三、老人クラブの活動は「生活を豊かにする楽しい活動」と「地域を

豊かにする社会活動」を両輪としてきたが、これに加え、新時代の高齢者としての自覚を新たにし、次の取り組みをすすめる。

- ①社会保障制度をはじめとする社会諸制度の健全な発展のための学習・実践参画。
- ②高齢者の生活向上のために高齢者全体の立場での提言・提案。
- ③地域福祉を高める「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動の推進。

私たちは、この意義ある機会に、一層の団結と相互の親睦と融和を図り、心身両面にわたり生きがいある老後生活を増進するため、老人福祉の原点に立ち返り、将来に向かって更なる飛躍を期したく念願しております。

健康で魅力ある

クラブづくりを目指して

稲毛区老連 小川 敏

人間誰しも、病気一つせずに若い頃のままの美しさと容姿を保ち、健康な体力を維持したいと望みますが、それも加齢するごとにむなししい望みに変わります。どんなに健康で自立していくことが望ましいと願っても病気にかかりやすくなります。

豊かな時代になって、日本人がかかる病気も高血圧、動脈硬化、脳卒中、心臓病、癌、等が大半を占めています。動脈硬化は二〇代から始まることがわかっていても、これらの病気を誰が、つくっているのかと言えば、自分であり、若い頃の日常生活の不摂生にあると、医師は指摘しています。

近年高齢者の増加により、高血圧、脳卒中、等の病気について、専門の講師を招き、これらの病気を未然に防ぐための、予防医学のあり方についての講義を受け、健康にまつわる商品を販売する業者も目立ち始めております。

言うまでもなく、介護を必要とする、寝たきりや、痴呆にならないための予防対策であります。

つまり自分の健康は自分で守ること

の自覚を持ち、趣味や、教養、スポーツ、健康づくり等の活動をとおして、自分に合ったライフスタイルを築く事がもとめられております。

会長職「二年」の浅い経験ではありますが、次のことを重点に置き魅力ある単位クラブ「草野草寿会」の育成を図りたいと思います。

- 一、心のかよった機関紙の継続発行。
- 二、健康を守る活動。
- 三、友愛活動「誕生祝・とじこもり対策、痴呆などへの励まし」等。
- 四、奉仕活動

この四点の活動を積極的に展開して、豊かな地域づくりに目をむけ、健康で、明るく、いきいきとした、魅力あるクラブづくりを目指していきます。

こころ豊かな老後を

花見川区老連 松本 葉子

長寿世界一と烙印を押された今日だがただそれを喜んでばかり居られない。益々自覚を新たにしなければならぬと思うからである。

それには先ず健康に留意し自立をモットーとし今迄の経験・体験を活かし持てる能力を微力ながら地域社会に還元することだと思ふ。

かえりみれば、私達高齢者はかつて老後の生活設計とか、より良い生き方・老化防止等々のマニュアルも無く、また年を重ねることを、それほど切実にも感じないまま漠然と過ごしてきたようであるが、今からでも遅くはないと思う。私自身、老化防止に次の五項目を掲げ毎日を努力している。

- 一、健康に充分注意する
- 二、感動・感謝を忘れない
- 三、何事にも興味を持ち挑戦する気持ちを持つ
- 四、趣味を持ち、多くの友と交流する
- 五、心の内の色気を失わないこと

かつて高齢者の敬称は「ご隠居様」であった。考えると、隠居とは「隠れて居る」の意味であって、人前に出ないことが美德であったのだろう。

しかし現代に於いては隠れる事なく経験・体験豊富な高齢者は各自の能力体力に応じ、どんどん実力を発揮するべきである。それには例え微力であっても良いと思う。心の張を失わず体力の許す限りボランティア精神で地域社会の一員として頑張るべきと考えている。

あくまでも老いをマイナスと捕らえずプラス思考を持ち毎日の生活を充実させ、明日への希望を失わず輝く人生を送りたいと願っている。

出席者 柴崎 玉吉 (元副会長)
菊池 力 (元理事・前若葉区老連会長)
長谷川省悟 (市老連会長)
小関 誠 (同副会長)
狩野 喜美 (同・女性委員長)
松林 増雄 (中央区老連会長)
中川 正雄 (稲毛区老連会長)

三浦ヨシエ (元理事・中央区老連女性委員長)
廣居 量一 (広報部長)
小野寺健六 (広報部員)
藤森 清彦 (広報部員)
湯浅 孝史 (事務局長)

司 会 岩崎 栄則 (広報副部長)

岩崎

私は、本座談会の進行を務めます岩崎です。
本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。
ました。それでは、初めに、長谷川会長に四〇周年記念の感想
を一言伺います。

長谷川



老人クラブ四〇年の歴史は、過去からの歴代の皆さんが築い
てきた数え切れない多くの業績の積み重ねでもあります。
また、大変苦労もあったものと推察いたします。
ここに、菊池さん・柴崎さん、先輩をお迎えし
て座談会ができますことは、大変有り難いことで、私たちにと
りまして参考になる思い出を語っていただければ幸いに思
います。

岩崎

政令指定都市になり、後に社団法人として転機を迎えたわけ
ですが、柴崎さん、菊池さんに、当時の思い出を語っていただ
きたいと思います。

柴崎

私は平成八年に体調をくずし、副会長を辞任しました。当初
は財団法人にするべく努力をしましたが、出資金(しゅつえん
きん)が三億円必要ということで出来なかった。連合会事務局
員が、各政令都市の調査をいたしました。ほとんどが、財団
法人ということで、社団法人は一ヶ所と記憶しています。社団
は総会を年二回しなければならぬが、財団は理事会だけで済
むので、財団が良かったのです。

菊池

区老連ができたのは、平成四年千葉市政令指定都市発足と同
時なんです。そして市老連が県老連から分離独立したのが平
成六年ということになる。そもそも法人化への動きは昭和五〇
年代からで、そういう動きの中でなんとなく「財団法人」にな
るんだと言いつた。それが突然「社団法人」なんです
ですね。その理由は柴崎さんがいま触れられた資金云々というこ
とでした。それはいわば内輪話で、公式の経緯は三十七年誌に書
かれている通りです。

この三十七年誌というのはいへんよく出来た史誌で、当時の
事務局の資料収集能力とそれをきちんと整理統合し、短期間に

一貫的記述にまとめ上げた廣居さん(編集委員長)の手腕によ
ることが大であり、あらためて敬意を表したいですね。

ちなみに、これからは情報を組織の各部が共有することが大
切ですね。情報に接していることがエライのではなくて、情報
を組織に消化してもらい、行動の指針を生み出すことにつなげ
ることが、組織運営に欠かせないでしょうね。

岩崎

法人化に向け、当時関わっていたどのような感想を持ちまし
たか。

小関



制度上とか法的に運営上どのようなか、まったく我々の
耳に入らなかった、社団法人の一つの焦点は、社
会的信用を得るための公的機関として市老連が法
人化するのだとの一点と財団、社団でも運営上社
会的に認められた組織なので、あえて簡単な考えで進んできた
もので、いみじくも官主導型の方角づけされました。区老連組
織は、平成四年にできて、その運営については、区老連が市の
行政指導によって動かされました。

三浦



婦人部のことについてお話しすると、平成元年に役員になり
ましたが、婦人部長の緑川さん、副部長の久力さ
んなどと、活動してきました。婦人部で、一円玉
募金と北谷津園の清掃はやめた。婦人部には法人
化の話はいっさいなかった。

狩野



法人化に向けて一円玉募金の七千万円を老人クラブの基本財
産として認めて下さいと、波多野会長に同行。市
役所の稲葉助役、小川福祉局長さんに陳情、大変
良い結果だったと喜んで帰ってきました。何か大
きな責任を果たした想いを忘れません。
また平成七年十一月二十八日の法人設立式典で、震える心を押
さえながら宣言文を読み上げた感動は、私にとり、老人クラブ
の大きな節目になっています。

岩崎

社団法人になって市老連がどう変わったかお聞きしたいと思

創立40周年記念座談会

政令指定都市後の老人クラブの位置づけと現在の課題と展望を語る

菊池

います。

区老連はできたが、統一モデルをなぞった規約ができただけで、一切は会長の判断でやるしかなかった。実質的活動は従来どおり地区老連でしたし、行事も地区老連を視野に入れたものでなければならなかった。たとえば単位クラブをどのように集約するのか、規約からは何も出てこない。

地区老連を定款のどこかに位置付け、それによって組織改革が必要ではないかという問題提起のさなかに、会員減少が問題化してきた。組織率が三〇％をドンドン下がっていく現象！。市老連本部は、組織運営よりも人（会員）を増やせという総論一点張りで個別具体的な方法につなげることはできなかった。ところがその矢先、若葉区に「ふれあい広場」という新しい発想を具体化し成功した単位クラブが立ち上がったんですね。つまり方法はあったんです。今もそこは発展し続けています。単に真似をして真似できるものではないですがね。

柴崎



区老連が出来たが、形ばかりで予算、決算は市老連でやってきた。本来は、区社協でやるべきであったと思う。区社協で区老連を運営することが一番理想的だとの話が始まったところで、うやむやになってしまいました。

岩崎

柴崎さんと菊池さんに三十七年史を読んでお聞きしたいことが一つあるのですが、昭和四十七年から平成七年まで市老連の生きがいと楽しみの行事として運動会をやっていました。二五〇〇〜三〇〇〇人の参加規模なんですが、大変な苦労があったと思います。当時のことを少しふれてみたいと思います。また、なぜ中止になったのかもお願いします。

菊池



そうですね、市老連がやってきた行事の中で最も実効があったのが運動会だったでしょう。家族動員もできて三千人参加といわれてました。ところが、会場設営や運営など、老人クラブだけの力ではできない。結局実施日を日曜にし、当日、市役所の

柴崎

しかるべき若い職員を大動員してもらっての行事だったんです。

それが市老連の法人化にともない独立性が求められる、職員派遣が難しくなって、自然消滅せざるを得なくなった。

初めの頃は、新宿小学校で行っていました。確か荒木市長の時代でしたか、八〇〜九〇歳の人が走ったものです。

どちらかといえば歩く運動でしたが、やはり怪我が一番多かったですね。また、八千代市・習志野市・市原市・千葉市の四市でゲートボール大会を毎年やっていました。

岩崎

区老連の活動が軌道に乗るのにかなりの時間がかかったと思いますが、松林さん、中川さんに当時を語っていただけますか。

松林



私は、昭和五六年に入会しました。それまで、母親が単位クラブの会長をやっていたのですが、亡くなった後に会計をやったのが動機です。

ちょうど、指定都市移行の時、会長が小川さんで、小川さんの後を引き継いだ。地区連の規定がなく動きがとれませんでした。登戸地区十五クラブで活動してましたが、認められないのはおかしいということで規定を作りはじめたものです。また、最初は、社会福祉協議会が全てやっていました。区老連発足し会則・役員決定、当時私は監事ということで会長は長岡さん、その後、熊谷さんが代行したこともありました。

中川

法人化について、財団法人・社団法人は、行政主導で来ていました。我々は何もわからなかった。法人化する趣旨の説明がされなかったし、何のために法人化したのか、みんなその理由が徹底していなかったと思います。

定款を見ると地区のことがのっていない、改正しないと活動が出来なくなるし、自主性を持って予算書・決算書作って提出しただけ、区老連の存在が認識されていなかった。私のところでは、平成十二年に総会を開くようにしました。

菊池

別の切り口から見ると、中央区と若葉区では単位面積当



り人口密度がはなはだことなる。ほとんど市街地の中央区と田畑が多い若葉区に同じ形式の活動をすすめても無理がある。各区の自主性や創意を生かす工夫がいると思う。

三七七誌になった事情を明らかにしておくことが必要とされます。廣居さんお願いします。

廣居



菊池先輩も触れられましたが、市老連のあゆみのあとがきに書きましたように、三〇周年記念事業として「市老連三〇年史」の刊行は、編集委員会の設置、単位クラブの拠出金など体制を整えながら、種々の事情があったとは言え不透明のまま七年近くも放置の状態がつづいた。数次の総会は当然批判の場となる。そこで十一年五月の総会は発刊中止を決め、区切りをつけたわけですが、同年八月改めて「三七七のあゆみ」を作ることになりました。一般的にいえば四〇年史へのつながりでもいいのですが、三七七という年度には歴年最大の節目にあたる二〇〇〇年を迎えることから、ミレニアム記念誌として「市老連三七七のあゆみ」としてを発刊したわけです。

岩崎



今後の課題についてに入りたいと思いますが、昭和五〇年に会員は急速に飛躍二二〇〇〇人、三七七誌では低迷する組織となっています。現在クラブ数は三二五、会員名簿を見ますと一五六五八人、最高時と現在は大変会員が減少している、なぜ減少している、なぜ減少し続けるのか、老人クラブが地域で魅力がなくなったのか、それとも他の原因で減ってきているのか、高齢者ですから自然減はあり得る、現在の延長に立って老人クラブの活動の活性化をしなければならぬと思います。この辺について率直に、皆さん日頃活動している方、先輩は長い経験を通して聞き出せるものだと思います。初めに長谷川会長からお願いします。

長谷川

今までのお話を聞き、先輩がこれからの私に示唆を与えてくれたような感じを持ちました。私も、一つの学校の校長という立場で職員を指導し、子供達を指導し一つの長として独断では

いけない、必ず長を助ける人達の意見を総合して聞き、結論を出さなければならぬということ、以前から知っていたが、今日改めてお二人の先輩から今までのあゆみを聞き、なるほど、どの組織でも同じことが言えるなということ、これからの市老連の会長としてどうあるべきか示唆してくれたことは、ありがたうお礼申し上げます。

会員の減少についてですが、六五歳以上の高齢者は年々千葉市では約一二〇〇〇人増えてる、老人クラブの会員は減ってきている。六五歳以上の人口は増えてるが、総人口の中で特に六〇代の初期高齢者の人口は横ばい、高齢者が増えてきているというのは、八〇歳・九〇歳はそのまま上がってきて下がってこない。

年代別に初期高齢者、六〇歳～七五歳・七五歳～九〇歳、中期高齢者・九〇歳以上、後期高齢者言われている。市老連でも初期高齢者の会員数が減少している、中期・後期高齢者の会員数は自然的に減ってきているが急激な減りはない、これからの会員の増強を図るには、初期高齢者をいかに老人クラブに加入させるかということが先決ではないか。その一つの方策として新しいスポーツを取り入れて、若い人達が魅力ある老人クラブをつくっていくことが大きな課題ではないかと考えます。

岩崎

会員を増やす条件はクラブ活動とは無縁でないと思いますが、その辺について松林さん日頃感じていることはありますか。

松林

私どもの単位クラブでも、どうしても自然的に減少してきている。新田町では、高齢者は一六〇人くらいおりますが、歩けない方はクラブに入らないし、六〇代はまだ働いているからだめだということで、私が敬老会で挨拶に伺った時に、声をかけて二人加入させております。

難しいかもしれないが、市政だよりに少しスペースをいただいて、毎号掲載していただければと思います。

岩崎

会員を増やすことと活動を活発にすることと関係について

中川

自治会との連携を持たないとだめではないか、現に自治会長

創立40周年記念 座談会



にクラブの結成に協力していただいている。
町内自治会理事事に伺った際に老人クラブのP
Rをお願いした。

パンフレットは各自治会に届いているので、徐々に浸透してくればある程度会員の増強につながるものと思います。

市老連を支えているのは女性なんです。会員増強も女性の力が大と思う。狩野さんいかがですか。

狩野

私たち女性委員会は、研修会もいろいろやって来ました。閉じこもりをなくそう、それが健康活動になるのだということ、独居になった時、私たちは温かい言葉をかけ、手をさしのべたら、こういうことが伝わるのではないかと、そうすることが老人クラブの原点になるのではないかと、それから、寝たきりを出さない、ボケは社会参加により防げる。解散クラブをなくそうという活動に力を入れた方がいいのではないかと。

全老連全体では増えているとありますが、一人減ったら一人増やす方向で、単位クラブに浸透させることも必要ではないかと思っています。

三浦

昔と違っていろんな機関が催しをやっている中で、その都度活動について声をかけても、自分の有利の方に向いてしまう。ですから、再三声をかけることが必要だと思います。

小関

昼間家にいない、かといって働きに行ってくるのではなく近所の公園で一日過ごす、若者にみんな追いやられているということで、その現状を我々が行って、単なる友愛活動だけで救えるものかどうか疑問が残りますが、末端地域の自治会組織がこのようなことがあることを自覚していかないと老人は救われない。老人クラブの組織として、老人が自分たちにあった方法で救ってやるのが出来れば少しでも潤いになるのでは。

岩崎

最後に先輩に今の立場で市老連への活動アドバイスについて伺います。柴崎さんからお願します。

柴崎

農村部と都市部との地域差があること。
年齢層が上がってきているので二部制に分けたらどうか、六〇歳では入会しない。国では六〇歳以上と言うが少し若いのではないかと思います。六五〜七五歳くらいと七五歳以上に分けないと話が合わないこともあります。

また、会員が多いと市老連に納める会費も多くなる、もらうより出す方が多いのではないかと、このような考えを持った会長さんもおられます。やはり、社協の協力がなければだめだと思います。ただ長く生きることが高齢化社会ではありません。生きていて良かったと思える生き方が問われる時代になったという事です。長生きする不幸もあります。これからは生きる価値があり、生きる意味のある長寿を模索しなければなりません。長く生きて良かったと心から思えるような生き方を、老人の一人一人が把握する事が一番大切な事になってきました。

菊池

老人クラブ内部での声は、これまで一般社会にはほとんど通じていなかった。それをどうすれば社会化できるかの一点につきましようね。

例えば、とりまく環境世界に視点を合わせる。一つは情報世界についてであり、機械オシンの我々世代ですが、あえて組織の頂点はそこへ踏み込むこと、あるいはまた老人福祉の場を組織の頂点が自ら具体化することなど、活眼でみれば道は八方にひらけているのではないかと、とー

岩崎

座談会も時間が参りました。
前段については、私たちの学習の場にもなりました。また、後段については、会員を増やすことや、市老連を発展させていく上で地域の特성에応じた活動が必要になってきたこと、会員を増やすにはそれぞれ努力することが大切との認識を持たなければならぬということです。

本日は、先輩にご指導いただきありがとうございました。これからの市老連の活動に生かしたいと思えます。
私の力不足で申し訳ありませんが、これを持ちまして座談会を終わります。

社団法人 千葉市老人クラブ連合会年表（抜粋）

年月

活動事項

年月

活動事項

（章創期）

昭二四（一九四九年）九月

全国養老事業大会、東京日比谷で開催。老人福祉に関する法律制定請願を決議。この決議により中央福祉協議会は九月十五日を「としよりの日」と定める。のち「老人の日」となり、昭四一（一九六六）年六月法律改正により国民の祝日「敬老の日」となる。

二七（一九五三年）九月

第二回としよりの日にあたり、中央福祉協議会は「としよりの日行事実施要項」を全国地区部会に通達。老人クラブ結成の呼びかけは全国運動となって各地に設立が相次ぐ。花園地区に第一、第二百寿会設立、市老連第一号となる。平均寿命 男・六五、三二 女・七〇、一九。

三三（一九六〇年）度

三六（一九六二年）三月

六〇歳以上一八％となる。

六月

十月

十二月

福地区に一クラブ設立（のち三分割）。

松波地区に一クラブ設立（のち四分割）。

三七（一九六三年）一月

新田町、寒川町に各一クラブ設立。

三月

鶴沢町に一クラブ設立。

松ヶ丘に二クラブ設立。

四月

（市老連創立）二〇周年

昭三七（一九六三年）五月

※全国の老人クラブ九、七五五 会員三五〇万人を超える。

野呂地区に一クラブ設立（のち三分割）。

上泉、大蔵寺に各一クラブ設立。

三八（一九六三年）七月

緑町地区に一クラブ設立（のち三分割）。

黒砂町に一クラブ設立。

村田町に一クラブ設立。

千葉市老人クラブ連合会設立総会、亥鼻町万ぎくで開催。前記十五クラブ、会員八〇〇名の代表参加。初代会長に花園第一百寿会会長税所杜吉氏を選出。

老人福祉法制定、第十三条において「地方公共団体は老人参加の事業実施と援助」を規定。

三九（一九六四年）七月

市老連会則を制定（七〇クラブ 会員四、五〇〇名）

会費一人一〇円規定。四九年六〇円、五一年一〇〇円、五

四〇（一九六五年）度

四二（一九六七年）三月

十二月

四三（一九六八年）度

四七（一九七三年）六月

四八（一九七三年）度

四九（一九七四年）九月

五〇（一九七五年）五月

六月

十二月

八年二〇〇円となる。

県老連実驗クラブとして市老連花園百寿会、四二年作草部百寿会指定。また県老連指導体制確立のため指導講師、運動推進員、活動指導員として活躍。

市老連第一回囲碁将棋大会開催、参加五六名。

市老連第三回お楽しみ会、社会センターで開催。歌、踊詩吟、義太夫など、各部会から二チーム、四〇〇名参加。

会員作品展、社会センターで開催、絵画、工作手芸、書道七二点出品。県老連作品展に一五名出品。

第三回囲碁将棋大会に囲碁四四名、将棋五七名参加。各部門から県老連大会に六名出場、千葉県高齢者本因坊、千葉県高齢者将棋純名人を獲得。

市老連部会別研修会毎年三回を基準として実施。

第一回運動会、千葉市の協力により新宿小学校において挙行、一三〇〇名参加。以後毎年開催し市老連の法人化により平成八年以降中止となり二四年の幕を閉じる。

市老連婦人部、地区連合会婦人部長をもって発足、会則により専門部に準ずる部門となる。

県老連四市（千葉市、市原市、習志野市、八千代市）タートリンピック相互開催始まる。

市老連クラブ数四〇〇、会員二二、〇〇〇名となる。地域の広域化により昭五六年地区制を改正し地区連合会を組織する。

市老連婦人部会、老人福祉施設づくりの一助として各クラブを対象に一円玉募金を開始。第一次目標を三〇〇〇五〇〇万円、期間五年としたが昭五三年六三〇〇万円と目標額期間とも早期達成。千葉市や福祉施設に対し「寝たきり老人輸送用特殊寝台車（のちに福寿号と命名）」を贈呈。

第一回輪投げ大会、千葉市共催により新宿小学校で開催。

二三部会、二五〇名参加。

市老連代表、福祉会館建設につき千葉市長と会談。翌五

三年市老連に建設準備委員会を設置。他県市の施設など見学。

五三二九七八年五月
一円玉募金、婦人部活動から市老連の活動となる。五五年迄の積立金一〇〇〇万円の大台を突破。

五四二九七九年五月
老人福祉会館建設、会員一八〇〇〇名の署名を添え市議会に陳情、市議会全会一致で採択。

五五二九八〇年九月
お楽しみ演芸会、演芸大会に改め第一回大会市民会館で開催。三二クラブ参加、うち四クラブ県老連大会に出場。

五六二九八一年五月
一円玉活用委員会設置。

八月
会員作品展出品数増加により千葉そごうを会場に開催。書道四三、絵画七一、工作四〇、彫刻二五、手工芸二〇七、写真二五、陶芸四、その他組紐など総数四三〇点となる。

九月
千葉県ゲートボール協会設立、初代会長に市老連会長鈴木長治氏就任。

五七二九八二年四月
創立二〇周年記念行事実行委員会を設置。記念式典、記念誌発行、会章、会歌の制定、記念植樹、ゲートボール大会開催を決定。一〇月に市民会館で記念大会を開催。

十月
獨居会員年末慰問、各地区連合会で実施。

五七二九八二年度
老人福祉法に基づく老人クラブ活動振興補助金対象事業を社会奉仕活動、スポーツ振興事業とし、会議費、負担金など除外。

五八二九八三年二月
補助金説明会、市役所正庁で開催。出席クラブ三七〇。

(県老連退会と法人化)
六二二九八六年五月
市老連会長鈴木長治氏、県老連会長に就任。県老連会員二五万人。

六二二九八七年五月
市老連会長鈴木長治氏死去により副会長波多野透氏四代会長に就任。

平 元二九八九年五月
政府、平成二年度老人福祉関係予算内示、単位クラブの国庫補助二二億円など総額三三億円となる。

二二九九〇年一月
市老連新年会において、松井千葉市長福祉会館建設を表明。

五月
財団法人設置に関する件、総会において満場一致可決。

平成二年度
厚生省、市町村老連運営要項及び老人クラブ運営要項を改正し、社会活動促進等を明確化。

四二九九年二月
県、市と県、市老連四者による政令都市移行に伴う県老

連事業参加等諸問題について協議。

四月
千葉市政令市に指定、全国十二番目。

政令指定都市として全市六区制となる。

市老連規約を改正し、各区に区老人クラブ連合会設置と地区割り改め二五地区から二九地区となる。

社会奉仕の日、各地区で清掃活動実施。

九月

十月

市老連創立三〇周年記念大会、千葉グランドホテルにおいて開催。メインテーマ「年輪パワーを結集して活力ある長寿社会づくり」。記念事業として、三〇年史発刊、植樹等の予算を計上。

千葉市委託事業として市内高齢者の「ふれあいの店」の展示即売実施。

五二九九年二月

三月

第二回県市四者会談で市老連の法人化につき千葉市は「平成六年法人化に努力する。法人は社団を検討する」と報告。

六二九四年三月

十月

市老連、県老連から分離独立。市老連創立以来県老連傘下において千葉地区四市連絡協議会（千葉、市原、習志野、八千代各市）を中心とした活動終わる。

七二九五年四月

十一月

全老連創立三〇周年記念として「国際友愛拠金運動」実施。災害、難民、海外日系高齢者、中国残留孤児等に対する支援を行う。

十二月

第一回女性リーダー研修会、市役所正庁で開催。

七二九五年四月

五月

法人化に向け事務局を高齢者福祉課から社会福祉事業団ビルに移転、体制の強化を図る。

五月

六月

会費三〇〇円に引上げ、区老連一クラブ一〇〇〇〇円＋会員一人五〇円を市老連納入となる。

六月

九月

市老連指導者研修会テーマ「高齢者相互支援の友愛活動について」開催。翌八年第一回通常総会は老人施設入所会員等の慰問、施設訪問を打出し女性委員会の実施研修、ボランティア活動注目される。

十月

十一月

社団法人設立について八月千葉県知事に申請。一〇月一日をもって認可。

(法人化以降)

八二九六年五月

波多野透会長勇退により五代会長に副会長長新生清蔵氏就

任。

九二九七年二月
会員増強のためにPRリーフレット作成、全クラブ、関係機関、団体に配布。

この年クラブ数三七二、会員一八七二六八人。ピーク時昭六二（一九八七）年に比べクラブ五六、会員三四三三人減となる。

十二九八年九月
全国の老齢人口十六・二％と高齢社会の数値に達する。

平成一〇年度第三次補正予算において、国は高齢者の健康づくり、予防活動の強化推進のため、一〇億二千万円を計上。実施団体として都道府県老連、政令指定都市老連、都市老連を指定。

十二九九年四月
グランドゴルフ研修会、ゆうゆう広場で開催。

創立三〇周年記念事業記念誌発刊不能のため中止となり、八月改めて「ミレニアム記念・千葉市老連三七年のあゆみ」刊行となり、翌十二（二〇〇〇）年七月発刊。

六月
地区別研修会「高齢者の健康づくり・医療と薬」を統一テーマに六、七月全地区で実施、大きな反響をよぶ。

十月
国際高齢者年「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」の国連五原則実現促進のため、国レベル、民間レベルの取組みを要請。

千葉市「高齢者の社会参加を、豊かな経験と能力を社会のために」を市政だよりでアピール。

七月
千葉市ハーモニープラザオープンに伴い、三〇周年記念植樹に代わり身体障害者用車椅子十四台を寄贈。

十二〇〇〇年六月
介護保険法成立。翌十二年四月実施となる。

関東甲信越ブロック研修会において厚生省福祉局担当官、老人クラブ助成金につき「十二年度は健康増進事業を含め三〇億円を通達。また介護保険二五〇万人認定、四月一日実施」と報告。

八月
会長新生清蔵氏死去により臨時理事会、六代会長に副会長長谷川省悟氏を選任。

第三五回会員作品展書道の部において、一〇四歳の内藤常次氏、会長賞に輝く。

十二月
第二四回輪投げ大会、千葉公園体育館で開催。

十二〇〇二年六月
市老連創立以来継続の大会に幕を下ろす。

健康増進事業推進のためニューススポーツ（スカイクロス、ペタンク、カットボール）各区老連講習会を開催。用具備品、講習経費等助成金交付。

十月
社交ダンス講習についても助成金を支給。

鶴岡千葉市長、市制八〇周年の節目にあたり、やすらぎを育み、未来を支える都市づくり新五ヶ年計画の中で高齢者の健康づくり、生きがいづくりにつき市老連広報誌に寄稿。

第十四回健康福祉祭広島大会、千葉市選手団一三三名参加。同時開催の美術展に十三年度会員作品展入賞者が出品、うち二名受賞。

十二月
女性リーダー研修会「二一世紀はみんなが主役」をテーマに開催、市老連会長長谷川省悟氏「男女共同参画社会の実現について」講演、また千葉市男女共同参画課長実川文子氏、市老連広報誌に寄稿。

指導者研修会「こころを動かす言葉」について、講演。

市老連副会長長力スィ氏死去・九二歳。平成五年全国老人クラブ連合会初代女性委員長に就任。女性の地位向上、活動推進、組織強化等多大な業績を残す。

第十四回通常総会、十四年度事業計画、予算を決定。

三月
全老連、老人の日・老人週間推進要綱案策定。

五月
都道府県、政令市老連リーダーセミナー及び関東甲信越ブロックリーダー研修会開催。

八月
会員増強の一環として各区町内自治会連絡協議会に協力要請のため会談。単位町内自治会に市老連活動のリーフレット及び協力依頼文書配布。

九月
市老連創立四〇周年記念座談会ハーモニープラザに於いて開催。

全老連創立四〇周年記念全国老人クラブ大会東京日比谷において天皇、皇后両陛下ご臨席のもとに開催。参加者二〇〇〇人、市老連は三〇名出席す。

全老連創立40周年記念 全国老人クラブ大会

宣 言

多くの先輩が高い志を掲げ、「老後のしあわせは、自らの手で開こう」の目標のもとに結成された全国老人クラブ連合会は、ここに創立四十周年を迎えました。

老人クラブは、戦後の混乱と激動の世相のなかにあつて、全国各地で結成され、国民のあたたかな励ましと国及び地方自治体の理解と支援のもとに、十三万三千クラブ、八百七十四万人会員の組織に成長しました。

わたしたちは、「生きがい活動」を基盤に、「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動をはじめ、リサイクル・世代交流・伝承などの幅広い地域活動に取り組み、今日では社会保障制度の充実や生活向上のため、積極的な提言・提案の活動を推進しています。

二十一世紀は、高齢者の存在感が飛躍的に増大し、社会の担い手として役割が大きくなる変革の時代です。

老人クラブは、「高齢者の世紀」が、「ゆとり」と「うるおい」と「やすらぎ」に満ちた心豊かな社会となるよう、高齢者がお互いに支えあい、誇りを持って、創造と連帯の輪を広げ、新しい時代にふさわしい活動の歩みを進めなければなりません。

よって、ここに老人クラブ創立の原点に立ちかえり、次の事項の実践を誓い宣言します。

- 一、高齢社会を支える仲間づくり・老人クラブづくりの推進
- 一、活力ある長寿社会を築く健康づくり・友愛活動の充実
- 一、地域社会に寄与する幅広い奉仕・ボランティア活動の展開
- 一、若い世代と手をたずさえた心豊かな地域づくりの推進
- 一、社会保障制度の健全な発展に向けた学習・実践・参画の促進

平成十四年九月二十六日

全老連創立四十周年記念 全国老人クラブ大会

平成十四年九月二六日、この日午前十時五五分天皇皇后両陛下は小泉総理、綿貫、倉田衆参両議長をはじめ主催者長尾全老連会長及び坂口厚生労働大臣、沖縄から北海道全国八七四万人の会員代表二千人の拍手に包まれて御臨席になられた。東京日比谷の全老連創立四〇周年記念全国老人クラブ大会である。

あたたかな天皇のおことば、小泉総理、衆参両議長の祝辞は、いずれも戦中、戦後の苦難に耐え、復興と発展につくした高齢者の労苦を讃え、健康長寿と更なる前進を期待するものであった。

厚生労働大臣表彰は老人クラブ育成成功労者九九名、優良老人クラブ四八団体、優良市区村老連五六団体。全老連会長表彰は老人クラブ育成成功労者一六三名、優良老人クラブ四八団体、優良都市区町村老連四八団体、永年勤続功労者二五名が受賞した。

千葉市老連は厚生労働大臣表彰老人クラブ育成成功労

者に市老連副会長小関誠氏、優良老人クラブに若松台ふれあい広場。全老連会長表彰には来生三、中川正雄両理事、優良老人クラブに長洲老人クラブ常盤会、優良郡市区町村老連に中央区老連が夫々受賞した。

大会式典は「ゆとり」「うるおい」「やすらぎ」に満ちた心豊かな記念になるよう、互いに支えあい、誇りをもって新時代の活動を進めようと五項目の実践と宣言をもって終り、両陛下御退席となった。

昼食後アトラクション「江戸町火消しの伝統文化である纏、梯子乗り、木遣り唄」が江戸消防記念会の皆様によって披露された。

第二部の講演は諸師齊藤茂太氏の軽妙洒落な話術は時には笑いを誘い、時には真剣な面ざしで聞く二千の胸にしまいこまれたが、人生七〇%でゆとりと楽しみに満ちた「快老のすすめ」は高齢者のこれからの暮らしや活動に大きなヒントを与えるものだった。

(廣居)

関東ブロック

リーダー研修会に参加して

稲毛東東映マンション寿クラブ会長 金巻 弘

研修会は全老連主催で、六月十九日から三日間、長野県茅野市・蓼科温泉のホテルを会場に、一都十県三市から男女三百十二人が参加して行われた。

内容は、基調報告、講演のほか「健康づくり」「在宅福祉を支える友愛活動」など四つの分科会に分けられたモデルクラブの活動報告。その中は、各クラブがこれまで取り組んできた活動状況と問題点、さらに今後の課題等が発表され、活発な質疑応答という形で進められた。この中で収穫は①基本は健康②顔の見える関係づくり③ボランティアは、無料の便利屋、と、改めて健康、友愛、奉仕の精神の大切さを教えられたことだ。

また諏訪中央病院管理者・鎌田実氏の「がんばらない」の講演では多くの深い感銘を受けた。タイトルの「がんばらない」は、知的ハンデイの

人の施設の中の「風の工房」

で書かれた十四歳の少女の書から取ったものという。医者も看護婦も診療後や薬を手渡すさえ重症の末期患者に、「がんばろう」「がんばりましょう」と、ついあいさつがわりのように言ってしまう。だが患者はいわれる前に、これ以上がんばれないギリギリのところまでがんばっているのだ。氏は少女の素朴な書の中にそう訴える心を感じ「がんばらない」を既刊書、講演のタイトルにさせてもらったという。

三か月と宣告されたホスピス患者が自宅に帰って暮らし始めたなんと一年半も永らえた。「特別な治療をしたわけではない。あるがままのクスリに優るものはないのです」の結びの言葉に感動。余世は「あるがまま」に「おかげさま」を加えた暮らしに―と強く心に誓った次第。実り多き研修会であった。

役員研修旅行

教養部 高橋平一記

いわき路…義家ゆかりの母畑

7月3日(木)～4日(金)



七月三日・千葉NTT前に集合し、にこやかな挨拶を交して、一号車四五名、二号車四六名は東関道を鹿島神宮へと向う。穏やかな空模様の下、鹿島の杜の昏さは神域を感じさせる。銀翼を揺る鹿島サッカーチームを過ぎ、原子力研究所の重々しい壁を左に見て、やがて昼食場所の大洗のイエローポットに到着。

更に、バスは野口雨情の里を通過し、岡倉天心の五浦美術館に到着。横山大観・下村観山・菱田春草・木村武山など日本を代表する画家を支えながら東洋の理想を説く天心の情熱に打たれる。

磐越道に入ると、山霧が尾根を駆け下って視界をふさぎ、先程までの青空は嘘のよう。

葉たばこの畑が続く山間の道を磐城石川へと走り続けて母畑温泉への到着は五時過ぎ。

大浴場の入口に「母畑」の由来が墨書で記されている。曰く「八幡太郎義家が安倍一族と戦った折、一時形勢を損じた義家がこの里に退いた際に、脚を怪我していた馬が数日後に快癒した。不思議に思い、調べると湧出る泉の効きめと判り、山上に母衣と旗を祀って神に感謝した。この母衣旗が母畑の語源」とか。

宵のお楽しみ会の賑やかなこと。蘇我の森雅子さんの手品、小仲台の狩野喜美さん等の踊り「花の手拍子」、菅田の岩瀬ヨシ江さん等の踊り「佐渡おけさ」、若葉の福地滋利さんの一人二役など大いに座が盛り上がる。

明けて四日、宿の見送りに手を振り、バスは一路いわき市石炭・化石館へと南下。

いわき鯨の十五米の化石やいわき海龍の骨の標本に五百万年前へ逆行した気分になり、又、六百米地下の石炭坑道の模擬体験を行い、炭坑で働く人々の生活を偲ぶ事が出来た。

梅雨晴れの常磐道を千葉へと向う。誰一人怪我も無く、奇禍にも遭わず、胸を張って帰宅の途へ。多謝。

長いようで、短いようで……

緑区老連女性委員長 小関 澄子

年寄りの脳の活性化や情緒を安定させるため、機能回復を目的とした「回想法」なるものを駆使して少し昔を思い出してみよう。

はたして機能が回復するかどうかは疑問ですが……

昭和五七年退職後、単身赴任のツケをすっかり貰い体調をこわして入院を繰返していた夫が、ご近所の長老に勧められ老人会に入会、まもなく会長に就任しました。その後私は、会費を納入するだけの情けない会員でした。

当時は、比較的前期高齢者が多く、踊りの練習、親睦旅行、ゲートボールといった遊びのなから集いあっていたように思います。

年号が平成となり、高齢者の社会参加はボランティア活動で菅田地区老連は、身体障害者父母の会の基金づくりにかわり福祉茶の販売に取組み、また特養ホームや新設の重度障害者施設への奉仕活動

等一〇年を経過した現在も継続して取り組んでいます。

加齢と共に要求も医療、福祉、介護問題と多様化し、それなりの研修が必修課題となってきました。脳の活性化が要求される昨今です。地区連の活動の輪が広がると内部だけの取り組みではすまされなくなってきました。

例えば公民館のサークル活動も「こすもす会」という四〇名近い団体となり、今回千葉市公益活動団体として登録。友愛奉仕活動は「ホンダ第二グリーンクラブ」四〇名の団体として社協ボランティア連協に登録。その関連で私は緑区民懇話会に席を連ねています。

市老連から推薦で委嘱を受けた千葉市介護相談員の仕事は、勉強不足に悩みながら月一回づつ二施設を訪問します。昨年のきつい養成研修から一年この十一月に最終現任研修二日間の受講が待っています。

幸いといえはこの仕事を通じ三笠宮寛仁親王殿下にお目にかかる機会を得て市老連四〇周年記念事業の一環として十二月十二日指導者研修会に

宮様のご講演をご快諾いただいたことです。この企画に特養ホーム「菅田園」施設長宇野眞之氏のご尽力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。これが成功に

随想 生命讃歌

悠々クラブ 安藤 幹

或る人の言葉に「人が生きるとは、あらゆる人や物との出逢いの積み重ねにではないだろうか」とあった。

出逢いが、縁あってのものであれば、この縁こそ生きることに最も大きなプレゼント的な存在となろう。

今年の夏は特に暑さ厳しく感じられたが、それにも負けず我家の庭に薔薇が一輪咲いている。深い紅の色を誇って、白き雲浮かぶ空に向かって咲いているその姿は春に咲く花とは違って少しばかり小輪である。

挿し木から育ててかなりの

期待をこめ市老連の皆様のご協力をいただき誠意をつくしたいと願っています。

病気を背負って二〇年、夫はかもしかのような足だと自慢してた足を少し引きずりながらまだ頑張っています。これも老人クラブとかかわったおかげでしょう。感謝しております。

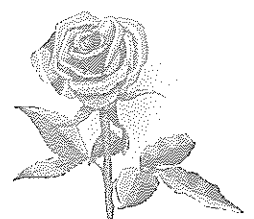
年月を呼吸している生命であるが、春夏秋冬その折々にいつも私と語らう大切な存在である。

春に若葉が出、蕾が付き、芽吹き雨、梅雨と自然の恵みを一杯に受けて幾重にも花びらを重ねて真紅の花が咲く。

春の花は豪華に、そして今咲いている晩夏の薔薇は夏の暑さに耐えた深い誇りを感じさせる澄んだ紅色。

花はどの花も美しいが、今、庭に一輪咲くこの花の美にこの花と語らう欲びを与え創造の神に感謝している。

心が曇っている時は心にか



かる薄い膜を一枚一枚はぐし、心晴れやかな時は花びらから更なるエネルギーを頂くような心地よい気分の重なりを頂戴する想いである。

暑さにも負けず小輪ではあるけれども素直に己の生命を精一杯に讃えて、しなやかに静かなる情熱を秘めて咲いている一輪の薔薇。

出逢いは縁あってのものであるなら我家の庭に咲きしこの薔薇に感謝しよう。

人や物との出逢いの積み重ねが生きていることであるなら、呼吸する生命との縁を大切にしようと思う。

人や物との出逢い、ふれあう中で自分の世界を拓け、心の曇る世界(画面)ではなく、明るく心地よい世界(画面)を拓けて、生かされている生命を大切にしたい。

時あたかも市老連創立四〇周年。この縁に心より感謝しつつ、小文をしたためました。

健脚

寒川地区老連 板倉清隆

私どもの集合体は社会的に多くの知識階級と多様な人生経験者で構成され、第一線を終え又生涯現役で活躍され、気骨な人、悠長、紳士と人間関係も、或る程度刺激面もあって、よいと思われまふ。又作物を成長させる窒素、燐酸、加里等を、三要素といって、これを適量に施肥することに

より収量が多いとされていることはご存知の通りです。

我が市老連は健康、友愛、奉仕等を軸に活動されておるの申すまでもありません。いま私どもは超高齢化時代はどう対応するかは、健康維持に努力されています。これにはなるべく外へ出る機会を多くすることにより、友人達

との交流を深めること、先づは歩くことを提唱したい。

人は足腰からと言われている。歩くことにより活力が増進され、足は第二の心臓とも言われていますので、初歩的なことですが次により試して頂きたい。

ポイント①先づはよい姿勢で歩く②肩の力を抜く③歩幅を大きめに④満足感を持つ。目安として一時間に五三〇〇歩、距離で二八〇〇メートル、朝、昼、晩自由ですが人

通りの少ないコースは避けたい。これを週に数回工夫してやることにより、食事もよし、夜はよく休める、これが健康の源といえます。

私どもは健康面で色々と指導教育を受けておりますが、良きことは実施し、友愛活動や奉仕へと大きく羽搏き、今後とも精神的肉体的に未経験の分野に遭遇されることもありこれには果敢に挑戦したいものです。

長年の労をねぎらい、花束贈呈があり退任者を代表して、熊谷實さんが感極まっていたあいさつをされた。

第一回女性リーダー研修会

六月二十四日、文化センター会議室において約六〇名出席で開催した。内容は会員増強と友愛活動についての事例発表で、長島愛子さん、奥山トシ子さん、石原康子さん、須永君代さんが発表された。

第十四回通常総会

五月二三日、文化センターで開催。

出席者二九七名（内委任状四四名）で次の議案を審議し承認された。

一、平成十三年度事業報告及び収支決算報告

二、監査報告

三、役員の選任について
選任された役員は次のとおり

会 長 長谷川省悟
副会長 小関誠、深山太一、狩野喜美
常務理事 湯浅孝史
理事 永野芳俊、松林

特選演芸会

六月六日、文化センターで開催。

市老連主催としては今回第九回目となり、多方面の分野から出演者を選んでいるが今年は民謡の山本謙治、浪曲の東家三楽、マジック

ショーの幸条スガヤであった。毎年楽しみにしている会員も多数あり、開場三時間前に、弁当持参で来場する人もいた。

レクリエーションダンス講習会

六月十一日、ポートアリーナ（サブ）において午前と午後に分け、豊島智江先生の指導により熱心に覚えた。

歓送迎会

六月十四日、新任、退任役員の歓送迎会をグリーンタワーパレス千葉において開催された。

役員研修旅行

七月三日、四日、一泊二日の研修旅行を実施。茨城県の天心記念五浦美術館、いわき市石炭化石館等を見学し母畑温泉に宿泊した。温泉で疲れをいやし、夜の宴会では、お互いの親睦を深めた。

民謡講習会

七月十七日及び九月十九日ポートアリーナ（サブ）において、舞踊家元師範の石川美豊香先生に指導していただいた。講習の「佐渡おけさ」は、特に皆が興味が

事務局だより



あり真剣に覚えた。

千葉市親子三代夏まつり参加
八月十八日、夜七時からの
千葉おどりに女性委員会二
百余名が参加。今年新調し
たおそろいのゆかたで、最
後まで楽しそうに踊った。
男性は、列の先頭や脇で市
老連名人入りの高張提灯を持
つことで参加した。

創立四〇周年記念

第三七回作品展
文化センター五階市民サロ
ンで八月二三日～二六日開
催。

今年も優秀な作品が多く、
賛美の声が多かった。

審査の結果は次のとおり。

市長賞(絵画) 樽見たけ

会長賞(手工芸) 藤平昇平

〃(陶芸) 西川智子

金賞(手工芸) 栗原 康

〃(絵画) 藤本キヨ子

〃(書) 大久保荘一

〃(写真) 山本年子

〃(彫刻) 畝本実里

〃(陶芸) 木全 勇

他に銀賞、佳作、シニア賞
あり。



創立四〇周年記念

第二一回ゲートボール大会

九月十二日、青葉の森スポ
ーツプラザにおいて、四二

チーム約三〇〇人の選手が
参加して開催された。好天

にめぐまれ、残暑厳しい中、

来年度のねりんピック徳

島大会の出場権獲得をかけ、

熱戦が展開された。

結果は次のとおり。

優勝 さつきが丘(花見

川区)

準優勝 小中台紅葉会(稲

毛区)

第三位 ふれあい広場(若

葉区)



社会奉仕の日

第四位 都同好会(中央区)
第五位 みつわ台寿会(若
葉区)
第六位 登戸(中央区)
なお、優勝・準優勝チーム
が来年度のねりんピック
に出場する。

全国老人クラブ連合会で、
全国一斉、九月二〇日と定
め、「花のあるまち、ゴミ
のないまち」の奉仕活動を
実施。当市老連でも、「社
会奉仕の日」の幟を各地区
に配布し、実施した。

下期行事予定

▼第八回グラウンドゴルフ大会

十月八日(雨天の場合は翌日)、
青葉の森スポーツプラザに
於いて

▼第十五回全国健康福祉祭ふく
しま大会

十月十九日～二十日、福島
県で開催。千葉市選手団一
五七名参加。市老連からゲ
ートボール、囲碁、将棋、
社交ダンス、国際シンポジ
ウムに出場する。

▼女性委員会研修旅行

十一月六日～八日、二泊三
日で新潟方面(清津峡、湯
沢等)へ

▼ふれあいの店

十一月十五日～十七日、ラ
パーク千城台ショッピング
センターで、手作り品の展
示即売を行う。

▼第三三回芸能大会

十一月二十七日、市民会館に
おいて開催。

▼新年会

一月十五日開催。会場は未定。

▼第十五回通常総会

三月二五日、千葉市文化セ
ンターにて。



短歌

都賀地区愛生尚寿会

山崎 きよし

おばあちゃんと抱きつく肌の温もり
はこの孫を産みし嫁の賜物

混合のパターゴルフに誘われて少し
紅さし白き運動靴履く

テレビつけ居間にまどろむわが顔を
覗きて夫はボリューム絞る

小仲台地区園生台寿クラブ

中川 敏子

梅林を歩けぬ足のもどかしさカラオ
ケ歌い車内盛りあぐ

合格を絵馬にたくして神頼みゆしま

の梅も誇らしく咲く

主亡きも啓蟄きたりしだれ梅道ゆく
人の歎心を呼ぶ

港町第一君待会

田村 富美子

この頃とみに思はるるこの街は吾が
晩年の第二故郷

夢に見し五の日縁日水天宮
ゆかた姿の吾がなつかし

両国をすぎれば吾が生れし人形町隅
田川への道すじ見ゆる

港町第二君待会

山田 登代

娘の住める御成街道裏山の
うぐいすの声受話器に聞こゆ

生きているそんな感じの娘の声は家
のこと子のことピアノのことなど

亡き夫を惜しみてくるる賀状あり九
〇の坂こえしと言うも

都賀の台シルヴァークラブ

平野 寿男

耳遠きつらさはテレビの漫才をしき
りに笑ふ妻に言ひ得ず

抽出しに写真の少年ぼくがゐる時に
顔見せ吾れを励ます

老いたり狭き器にこもれども時に話
題は世界規模なり

俳句

白井地区高根みど会

伊藤 辰雄

かどまつ こうばいさ
門松に紅梅咲きて新世紀

くさ しろき
豆をまく孫の仕草に福はうち

きしむか
喜寿迎え共に手を取り五〇年

むつみ鶴の会

高橋 平一

味のある言葉噛みしめ血止草

大向日葵真夏の町に王者めく

横顔の大観のひげ梅雨灯し

三味弾けや手拍子打てや舞浴衣

御赦免船送る手つきにおけさ笠

人間の化石になるやも梅雨の間

稲毛東寿会

鈴木 文平

秋天へ天平の塔突きささる

ト口箱に朝顔咲かせ磯の宿

雷門すり抜け反転初つばめ

小中台紅葉会

水田 勝二

花冷えの刀身に浮く波模様

柿若葉目の澄む魚を酢でしめて

風花や出囃子洩るる楽屋口

編笠の顔覗きたし風の盆

秋簾巻かれ生活が垣間見え

通夜の灯の届かぬ間に沈丁花

北地区長沼若葉会

早瀬 昭代

小中台紅葉会

亀井 君子

篝火に女鶴匠の太き眉

花芒札所巡りの老夫婦

合掌の小さき手愛し初詣

札所寺めぐる秩父や秋暑し

秋風に乱れて薄き湯の煙り

あるし
主亡き作物畑に草茂る

綿雲の切れて消へゆく今朝の秋

深大寺門前そば屋の釣忍

春風や麴の匂ふ通し土間

長作町 緑友会

齋藤 良二

北地区長沼若葉会

高田 久子

軒に千す葉草の束小文月

葛切りや女に似合ふ京言葉

遮断機に心せく時星流る

後記 編集

■久しぶりの日比谷公園であった。四〇年前のその頃は公園の近くにいたので馴染みの場所だったが、日比谷の空は広く明るかった。ところがどうだろう。公園は高層ビルの谷間のせい、空は狭く明るさがない■全老連、市老連ともに創立四〇周年記念を迎えたが、昭和三七年といえど安保反対デモ、全学連の国会座り込みなど日本をゆるがせた安保闘争二年後である。この頃はまだ地域社会や家庭より会社人間といわれるくらい働き漬けの毎日でもあった。■土、日連休、振替休日を入れると三連休。カレンダーの日付の赤文字の多さを見ながら勤勉精励一〇〇%人生を顧みる。大会の第二部の講演、斉藤茂太氏の「快老のすすめ」を聞いて大会宣言の「ゆとり」と「うるおい」と「やすらぎ」に満ちた二一世紀は、氏の言う人生七〇%人生によって現実のものになるだろうと心の中に包み込んだ。(広)



社団法人 千葉市老人クラブ連合会

〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2 ハーモニープラザ3階
TEL 043(262)1236 FAX 043(262)1237

2002-10